

スズメバチの巣発見 3人がかりの大捕物

藤本 将

御前崎の池守代表の所でもスズメバチ退治に苦戦されたとお話が「野菜満菜」(池守さんの野菜宅配便に綾子夫人の野菜料理のレシピと同封されるエッセイ)に掲載されておりましたが、「倉馬の里」バレーキューハウス天井にも大きなスズメバチの巣が発見され、退治に難儀しました。

巣は柱にこびりついた状態で簡単に外れる物ではなく、地元の蜂退治名人の内山初男さんをお願いした。

9月10日の夜7時半頃、暗くなるのを待って作業開始、の筈がまだ巣の周りを10数匹が飛び回っており、入口を確認し、翌日8時半頃、内山、松浦、小生で出直し。宇宙服のように完全武装の内山さんが梯子を登り、かけ声を掛ける。小生は証明係、内山さんは素早く入口をふ

さぎ、巣を切り離しビニール袋へ：しかしこびりついた巣の一部が残り、取り残された残党の来襲にスプレー噴射で応戦。残りをそぎ落とし、袋に収納し、9時半作戦完了、小生にとつては2、3時間かとも思える長い時間でした。見張り役の松浦さん共々肝を冷やした3人がかりの大捕物でした。

倉馬の里、にぎやかに

「クッキー」と山崎君入村

8月上旬、内山さん(前述)のお世話で生後1ヶ月の子ヤギ(雌)が倉馬の里の志住人の仲間入りをしました。名前は隣の川口さんのお嬢さん「理沙ちゃん」が「クッキー」と命名した。小屋は地主の松浦さんの手作り、将来は強力な雑草対策要員として期待している。朝早くからメーメーと鳴いて散歩をせがみ、姿が見えなくなるとメーメーと鳴き、まだまだ手間がかかります。倉馬の

里の朝は小屋掃除と餌やり、散歩から始まります。

葛やキャベツや竜舌菜が大好物で近所の農家や川口夫人にお世話いただいております。養鶏を廃業した野田さんに濃厚飼料を分けて貰いました。今後の成長が楽しみです。

新人紹介

8月下旬、柴桂子さんの甥の山崎一磨君が入居しました。アメリカ・イギリスで英語を習得後、日本企業のインド現地法人に就職、その後退職、翻訳業の傍ら自然に親しみたいとの思いで「倉馬の里」への入村を希望。

詳細は自己紹介を参照。

柴桂子さんは女性史辞典の編集作業が大詰めとなり「倉馬の里」で



写真は同じく現在の食のあり方に危機感を持つ京都の「土心」の浜村さん(左)と

の耕作が困難で後を一磨君に託す事になりました。(以上 藤本記)

山崎一磨です。

私の暮らしていた東京都では食品の約3分の1が、「期限切れ」という業者の浅はかな基準のもとに廃棄されていると聞きました。家庭で廃棄される分を合わせたら、それ以上の食品が無為に棄てられているのでしよう。農家の方たちが必死の思いで育てた農作物、その命を提供してくれた牛や魚に申し訳ないと思いました。なぜそんなに平気で食べ物を棄てられるのか？結局は「消費者」と「消費されるもの」の断絶にあると思います。そんなことを考えながら、絶え間ない消費から1歩身を引き、自らの手で食べ物を作ってみようと、ここ倉馬の里への移住を決心しました。胡瓜一本つくった経験さえない私ですが、こちらの皆様のご指導を仰ぎながら、日々土に触れる生活に邁進したいと思っております。